

令和元年度厚生労働行政推進調査事業費補助金
難治性疾患政策研究事業
分担研究報告書

指定医研修プログラム作成のための研究

研修コンテンツ案及び e-learning システムのプロトタイプ作成
のための研究

研究代表者	曾根 智史 (国立保健医療科学院、次長)
研究分担者	金谷 泰宏 (東海大学医学部基盤医療学臨床薬理学 教授)
	秋丸 裕司 (国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 難治性疾患研究開発・支援センター 難治性疾患治療開発・支援室研究調整専門員)
	掛江 直子 (国立研究開発法人国立成育医療研究センター 生命倫理研究室・小児慢性特定疾患情報室 室長・スーパーバイザー)
	羽鳥 裕 (公益社団法人日本医師会常任理事)
	王子野麻代 (日本医師会総合政策研究機構主任研究員)

研究要旨

難病指定医等に対する指定難病に関連する知識、技術を効果的に普及するための研修プログラムを開発することを目的として、「①指定難病制度の概要」、「②臨床調査個人票の記載にあたっての全般的留意事項」、「③領域別(疾患群別)の指定難病の申請にあたっての留意事項」についてコンテンツ案を作成した。

e-learning システムのプロトタイプも作成し、①、②については、音声を含めて動作を確認することができた。

A. 研究目的

本研究は、難病指定医等に対する指定難病に関連する知識、技術を効果的に普及するための研修プログラムを開発することを目的とする。本分担研究の最終成果物は、難病指定医等を対象とした、研修プログラムのコンテンツ案及びそれを効果的に普及するための e-learning システムのプロトタイプである。

研修プログラムのコンテンツは、①指定難病制度の概要、②臨床調査個人票の記載にあたっての全般的留意事項、③領域別(疾患群別)の指定難病の申請にあたっての留意事項で構成される。昨年度に引き続

き、上記①～③を検討し、練度の高いコンテンツ案を作成した。さらに並行して、これらのコンテンツを e-learning として提供するためのシステムの開発を行った。さらに、開発したコンテンツ案を e-learning システムのプロトタイプにマウントして、その動作について検討を加えた。

B. 研究方法

1) 「①指定難病制度の概要」研修コンテンツ(案)の開発

昨年度、難病指定医研修テキスト「難病対策の概説 第3版(日医総研ワーキングペーパーNo. 387)」から基本的かつ重要な学

習単元を抽出し作成したスライド版コンテンツと読み原稿に改訂を加え、コンテンツ（案）を完成させた。

2) 「②臨床調査個人票の記載にあたっての全般的留意事項」研修コンテンツ（案）の開発

昨年度、「難病対策の推進に寄与する実践的基盤提供にむけた研究（研究代表者：国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 松山晃文）」研究班の成果に基づき作成したスライド版コンテンツと読み原稿に改訂を加え、コンテンツ（案）を完成させた。

3) 「③領域別（疾患群別）の指定難病の申請にあたっての留意事項」研修コンテンツ（案）の開発

昨年度、作成したスライド版コンテンツに改訂を加え、コンテンツ（案）を完成させた。

また、昨年度開発した、上記コンテンツ（案）を e-learning として学習できるようにするための e-learning システムのプロトタイプについて、読み原稿に基づく音声を付加し、オートスライドと同期させるなどの改良を加えて完成させた。

（倫理面への配慮）

1) ～ 3) については、公表済みの資料のみを用いて研究を実施したため、倫理上の問題は無い。

C. 研究結果

1) 「①指定難病制度の概要」コンテンツ（案）を【資料 1】に、「②臨床調査個人票の記載にあたっての全般的留意事項」コンテンツ（案）を【資料 2】に示した。

また、e-learning システムのプロトタイプを開発し、上記①、②のコンテンツを音声と同期したオートスライド形式で DVD に

記録した。その一部を【資料 3】に示した。

D. 考察

今後、難病法に盛り込まれた、施行後 5 年以内の見直しを契機に、本制度は様々な切り口から再度検討されることになっている。今回作成した難病制度コンテンツについても、今後の制度改正、地域の実情やニーズを踏まえ、必要に応じた見直しが必要になると考えられる。

E. 結論

難病指定医等に対する指定難病に関連する知識、技術を効果的に普及するための研修プログラムを開発することを目的として、「①指定難病制度の概要」、「②臨床調査個人票の記載にあたっての全般的留意事項」、「③領域別（疾患群別）の指定難病の申請にあたっての留意事項」についてコンテンツ案を作成した。

e-learning システムのプロトタイプも作成し、①、②については、音声を含めて動作を確認することができた。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし